

編集後記

以下、少し長くなって恐縮ですが、押川先生の記事に着目させていただきます。APSフェローの選出は、これまでの受賞者を見ても大変な名誉なことだと思います。そして、アメリカでの研究環境については、共感される読者の方々も多いと思います。丁度、アメリカ大統領選挙が始まっていますが、ニュースの中からも多民族国家、chat、上手な環境づくりなど通じることが多く感じられます。ちなみに、アメリカでは、私のようなリサーチアドミニストレータの協会があり、社会的にも研究環境整備に関する体制が確立されています。一方、ヨーロッパでは、勿論、研究で有名な大学はありますが、マックスプランクに代表されるように、大学は教育、研究は研究所という棲み分けを元に、研究所では当然研究活動を中心とした研究環境が作られています。押川先生も書かれたように、アメリカとヨーロッパの間でも研究環境に関する違いも多いわけですが、欧米にはあって日本には欠けていることとしては、官僚における博士人材です。この構造的な課題のしわ寄せが、研究現場での研究時間の確保を難しくしているように思います。まあ、そのため(?) URA が必要になっていることも確かですが。

今回も研究に関する文面を書くスペースが無くなってしまいました。

鈴木博之

物性研だよりの購読について

物性研だより発行のメール連絡を希望される方は共同利用係まで連絡願います。

また、物性研だよりの送付について下記の変更がある場合は、お手数ですが共同利用係まで連絡願います。

記

1. 送付先住所変更（勤務先⇔自宅等）
2. 所属・職名変更
3. 氏名修正（誤字脱字等）
4. 配信停止
5. 送付冊数変更（機関送付分）
6. メール配信への変更

変更連絡先：東京大学物性研究所共同利用係

〒277-8581 柏市柏の葉 5-1-5

メール：issp-kyodo@issp.u-tokyo.ac.jp